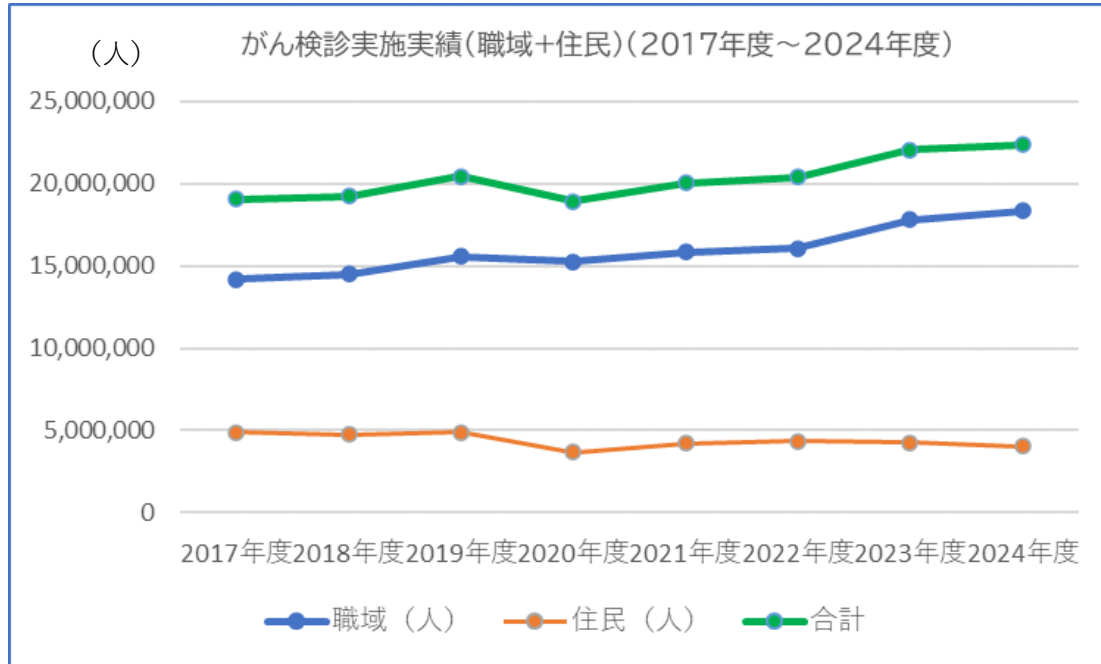


- (公社)全国労働衛生団体連合会(全衛連)とは
- がん検診実績推移(会員機関実勢調査から)
- 全衛連の実施する精度管理調査
- まとめ
- 歯科健診実施状況

(公社)全国労働衛生団体連合会(全衛連)とは

- 労働安全衛生法(安衛法)に基づく健康診断等を提供する労働衛生機関116法人の連合会
- 会員機関健診等実施実績：
(令和6年度) 一般健康診断:延べ1,400万人、 特殊健診:延べ250万人、
職域がん検診:*1延べ1,800万人、 住民がん検診:延べ400万人

*1: 生活習慣病予防健診(協会けんぽ)、人間ドックを受診した者をカウントしたもの
- 全衛連の目的:会員機関の技術・サービスの向上を図り、働く人の健康と企業の産業保健活動をサポートする
 - 労働衛生サービス機能評価(施設認定)を実施: 160施設認定 (会員以外も参加可)
 - 総合精度管理調査(5分野)を実施: 各分野合計約1,600施設が参加 (会員以外も参加可)
 - 研修会を開催: オンライン・対面等28回開催、延べ2,000人が受講 (会員以外も参加可)
 - 「働く人の健康」を刊行:健康診断の基礎+新しい法制を網羅し、毎年約1万部発行
- 厚労省・学会の研究に協力・データを提供
 - 労災疾病臨床研究:特殊健康診断等について(研究代表者:森晃爾、菅沼成文)
 - 日本消化器がん検診学会等:胃がん検診の実態調査



2024年度の傾向

■ 職域

- 前年に対して、+2.8%と増加は継続した。
- 年間の総受診者数は約1,830万人であった。

■ 住民

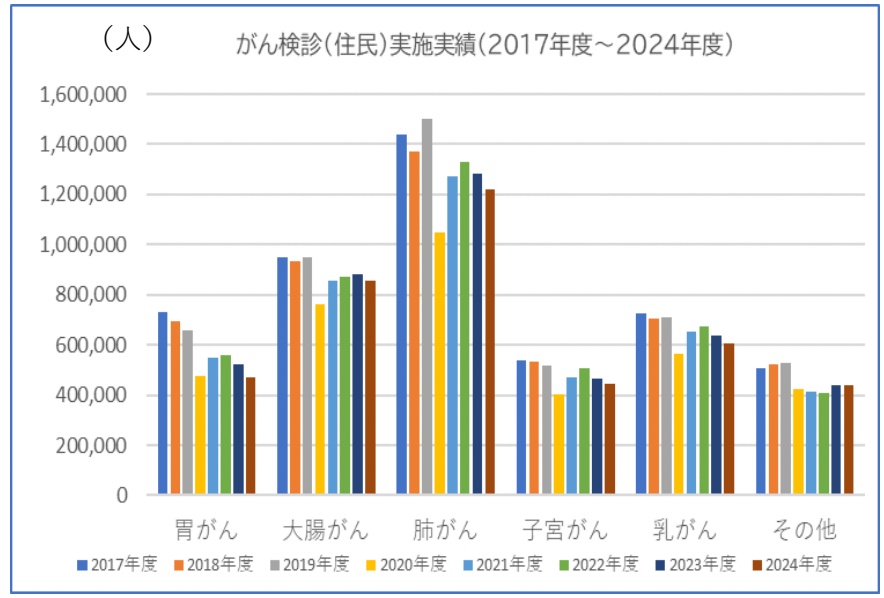
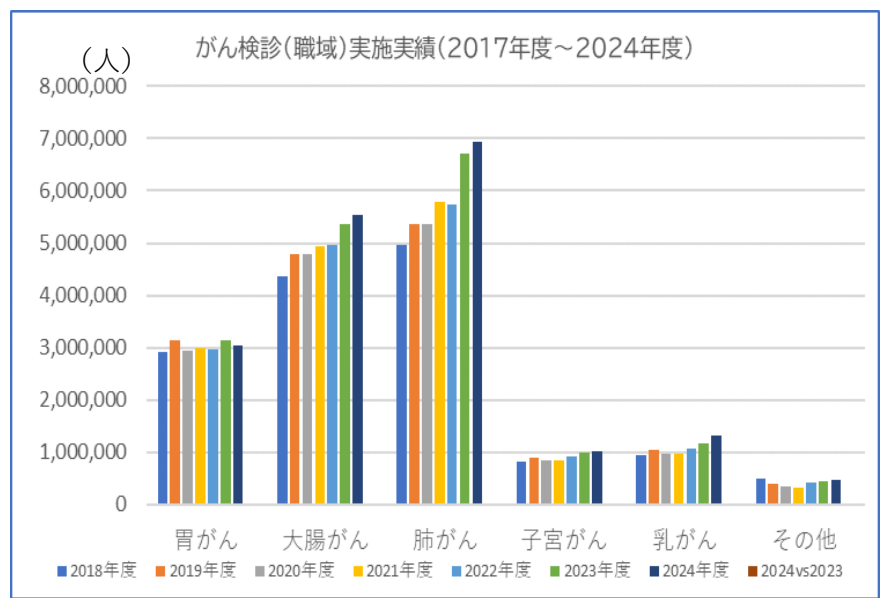
- 前年に対して、-4.8%と減少が継続した。
- 年間の受診者数は約400万人であった。

■ 全体

- 前年に対して、+1.4%とほぼ同等であった。
- 年間の受診者数は約2,240万人であった。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
職域 (人)	14,166,493	14,497,381	15,590,415	15,264,852	15,833,671	16,068,842	17,824,881	18,328,440
対前年比	---	102.3%	107.5%	97.9%	103.7%	101.5%	110.9%	102.8%
住民 (人)	4,891,663	4,761,287	4,871,294	3,681,522	4,214,253	4,349,366	4,234,937	4,031,442
対前年比	---	97.3%	102.3%	75.6%	114.5%	103.2%	97.4%	95.2%
合計 (人)	19,058,156	19,258,668	20,461,709	18,946,374	20,047,924	20,418,208	22,059,818	22,359,882
対前年比	---	101.1%	106.2%	92.6%	105.8%	101.8%	108.0%	101.4%

がん種別検診実施実績推移 [全衛連が実施した実勢調査(全衛連会員・年間総合実績逐年調査)より抜粋]



	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024vs2023
胃がん	2,880,116	2,918,763	3,142,855	2,952,572	3,000,073	2,969,206	3,136,729	3,042,626	97.0%
大腸がん	4,158,914	4,353,765	4,786,485	4,791,937	4,937,708	4,962,636	5,371,957	5,534,173	103.0%
肺がん*2	4,758,331	4,961,423	5,352,082	5,365,441	5,778,195	5,740,540	6,714,596	6,932,802	103.2%
子宮がん	808,177	824,828	882,890	849,925	833,444	924,303	996,739	1,030,727	103.4%
乳がん	904,148	954,130	1,032,091	969,465	976,334	1,064,564	1,157,414	1,330,023	114.9%
その他	656,807	484,472	394,012	335,512	307,917	407,593	447,446	458,089	102.4%
合計	14,166,493	14,497,381	15,590,415	15,264,852	15,833,671	16,068,842	17,824,881	18,328,440	
対前年比	---	102.3%	107.5%	97.9%	103.7%	101.5%	110.9%	102.8%	

- 2024年度は胃がん検診が前年割れだったが、他の分野は3%強の伸びであった。
- 乳がん検診は約15%の伸びであった。
- 胸部検診の受診者平均年齢(男)は2022:53.3才~2024:53.8才と上昇、女性も53.4才から53.8才と上昇(対象40歳以上)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2024vs2023
胃がん	732,367	692,740	659,975	474,747	548,958	558,803	524,311	469,112	89.5%
大腸がん	949,577	936,449	950,926	764,336	854,005	873,141	882,397	854,995	96.9%
肺がん	1,438,453	1,372,139	1,503,273	1,047,548	1,271,418	1,329,038	1,284,263	1,220,203	95.0%
子宮がん	537,950	532,810	517,728	402,688	469,174	505,712	463,406	442,523	95.5%
乳がん	728,140	706,158	712,062	565,751	655,522	673,368	639,131	606,073	94.8%
その他	505,176	520,991	527,330	426,452	415,176	409,304	441,429	438,536	99.3%
合計	4,891,663	4,761,287	4,871,294	3,681,522	4,214,253	4,349,366	4,234,937	4,031,442	
対前年比	---	97.3%	102.3%	75.6%	114.5%	103.2%	97.4%	95.2%	

- 2024年度は全ての種別の検診において、令和元年度の水準を回復できていない。
- 前年度の水準をほぼ維持できたのは「その他」のみであった。

*2: 「肺がん検診」は安衛法による胸部X線検査と人間ドック等の検査実績の合計

全衛連の実施する精度管理調査

- 画像系3分野(胸部X線検査、胃X線検査、腹部超音波検査)、検体系2分野(労働衛生検査・臨床検査)
- 調査目的: 健診技術のボトムアップを目的とし、撮影・診断技術の審査と事後指導を実施
- 調査対象: 健診で上記検査を実施している健診機関 (分野別・会員以外も参加可)
- 評価方法: 施設で撮影された画像(正常例・有所見例)、有所見例の判定レポート、健診システム管理状況の報告を提出いただき審査を実施、総合判定結果を4段階で評価
- 評価指針: 次ページ参照
- 指導: 審査結果を基に「現在の問題点」をコメントし、「改善方法」についてアドバイス
- 健診機関の参加理由: ① 機能評価認定条件 ② 事業主との契約条件 ③ 内部精度管理の裏付け
- 2025年度調査結果 [優:85点以上][良:70点以上][可:60点以上:要改善][不可:60点未満:要改善]

項目	参加施設	参加施設 検査人数 (万人)	実績(万人)		評価分布			
			職域	住民	優	良	可	不可
胸部X線検査	397	2,350	2,050	300	90.7%	9.3%	0%	0%
胃X線検査	268	495	355	140	52.2%	38.6%	7.5%	1.7%
腹部超音波検査	293	340	340	---	61.6%	34.0%	3.0%	1.5%

精度管理調査の評価指針

胸部X線検査精度管理調査

■ 画像評価(正常例)	
解剖学的指標(肺血管・気管・胸椎など)	70点
物理学的指標(濃度・コントラストなど画像処理)	30点
■ 精度管理項目(減点項目)	-10点(最大)
要精検率・精検受診者把握率☆	
読影体制☆	
モニター管理	
照射線量	

胸部X線検査精度管理調査の判定基準

- ・ 画像評価[米国BRH*2の画像評価票]を基本形としてデジタル画像審査用に改良を加えた
- ・ 精度管理項目は[肺がん検診チェックリスト]の項目に準じた内容としている(上記表の☆印)

胃X線

■ 画像審査・正常例	44点
撮像技術(基準撮影法)・胃粘膜網羅性・画質	
■ 画像審査・有所見例	49点
撮像技術(追加撮影)・所見と性状・スケッチ	
■ 精度管理項目(減点項目)	7点
要精検率・精検受診者把握率☆	
撮影・読影管理体制☆	
専門性(医師・技師)☆	
モニター管理	

胃X線検査精度管理調査の判定基準

- ・ 胃X線検査マニュアル(2025)、胃X線検診読影アトラス等を基準とし標準撮影の遵守度、胃粘膜の網羅性、有所見例の判定・スケッチの精度を評価
- ・ 精度管理項目は[胃がん検診チェックリスト]の項目に準じた内容としている(上記表の☆印)

2025年度精度管理調査参加施設のプロセス指標項目管理状況

	参加施設	精密検査 受診者の把握 に努めている 施設*3	検査人数 (人)	要精検者 (人)	要精検率	精密検査 受診者	施設で把握で きている精密 検査受診者率 *4	がん 発見数	がん発見率	
									全衛連	対がん協会 HPより
肺がん検診	272	209 (76.8%)	5,732,028	67,090	1.2%	36,499	54.4%	783	0.014%	0.05%
胃がん検診	241	187 (77.6%)	2,801,186	81,083	2.9%	33,684	41.5%	471	0.017%	0.09%
(参考)										
腹部超音波検診	293	270 (92.2%)	3,200,587	127,312	4.0%	64,036	50.3%	1,433	0.045%	0.06%

- ・職域がん検診を実施していると申告した施設の中で、各施設の取り決めに基づき受診者に連絡を取り、精密検査の受診状態を把握に努めている施設は肺がん検診で76.8%、胃がん検診で77.6%、腹部超音波検査92.2%であった。
- ・精密検査を受診したのは、肺がん検診で54.4%、胃がん検診で41.5%、腹部超音波検査で50.5%、であった。

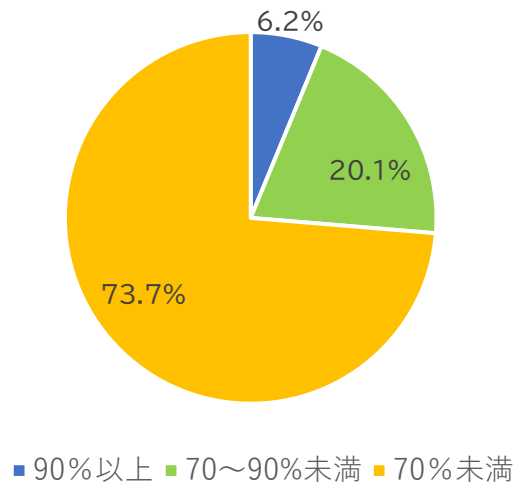
*3:精密検査受診者把握施設

要精密検査と判定した受診者の精密検査受診の状況について、各施設の取り決めに基づき受診者に連絡を取る等し、把握に努めている施設

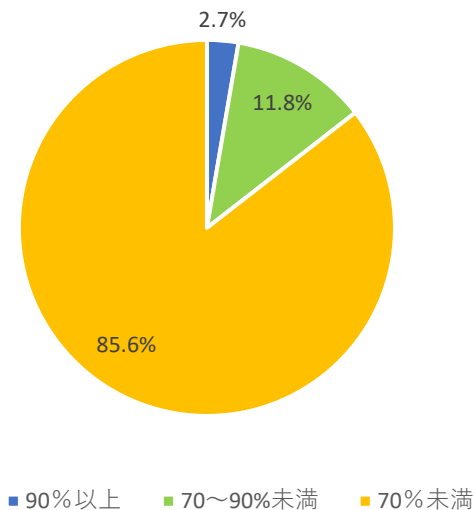
*4:要精検者に対する当該健診機関の精密検査を受診したか、精密検査実施施設から精密検査実施結果報告を入手することができた受診者の人数の割合。

精密検査受診者把握状況

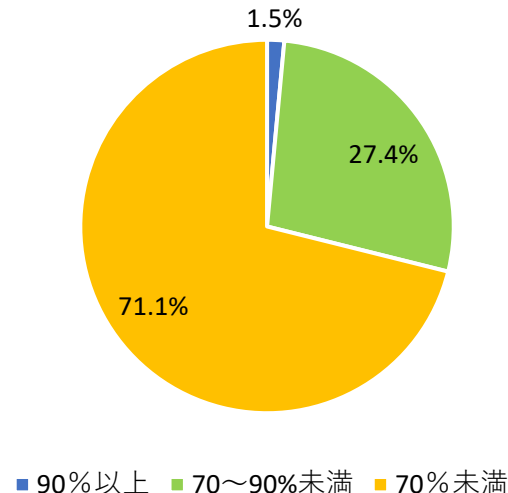
肺がん検診 精密検査
受診者の把握に努めている施設



胃がん検診 精密検査
受診者の把握に努めている施設



腹部超音波検診 精密検査
受診者の把握に努めている施設



【参考】腹部超音波検診について

- 全体の把握率は胸部と同等
- 70%~90%把握の施設の比率および精検受診者数が他の検診より多い
- 腹部超音波検査精度管理調査を共同実施するドック学会*5では、施設認定の重要な案件として、精度管理調査への参加と要精検者のフォローアップを求めている。70%以上把握している施設の割合は年々上昇している。

円グラフの90%以上等の標記は、要精検者に対して、施設で精密検査の受診の有無が確認できた者の割合を示す。例えば、「90%以上」とは、要精検者の人数に対して、90%以上の人数の精密検査の受診の有無（精密検査を受診した者又は受診しないことを確認した者）を確認できていることを示す

職域がん検診を実施しているとした施設の内、精密検査の受診者の把握に努めている施設、未把握施設

	胸部X線		胃X線		腹部超音波	
	把握施設	割合	把握施設	割合	把握施設	割合
把握施設	209	76.8%	187	77.6%	270	92.2%
未把握	63	23.2%	54	22.4%	23	7.8%
合計	272	100.0%	241	100.0%	293	100.0%

*5:ドック学会は日本人間ドック・予防医療学会

精密検査の受診者の把握に努めている施設のうち、精密検査の受診の有無を把握できた人数の割合別の施設の分布状況

施設の分布	胸部X線		胃X線		腹部超音波	
90%以上	13	6.2%	5	2.7%	4	1.5%
70%以上90%未満	42	20.1%	22	11.8%	74	27.4%
70%未満	154	73.7%	160	85.6%	192	71.1%
合計	209	100.0%	187	100.0%	270	100.0%

受診者の分布	胸部X線		胃X線		腹部超音波	
90%以上	795	2.2%	473	1.4%	643	1.0%
70%以上90%未満	10,892	29.8%	5,966	17.7%	25,784	40.3%
70%未満	24,812	68.0%	27,245	80.9%	37,609	58.7%
合計	36,499	100.0%	33,684	100.0%	64,036	100.0%

■ 現状と今後

1. 職域がん検診は任意実施のため、要精密検査対象者のフォローの可否は、健診施設の主体的努力のみならず、受診者個人の考え(プライバシー保護)にも影響される。
2. 要精密検査のフォローアップを実施していない機関が一定数ある。
3. 受診年齢層が年々上昇し、職域がん検診の重要性が高まると予測される。

■ 課題

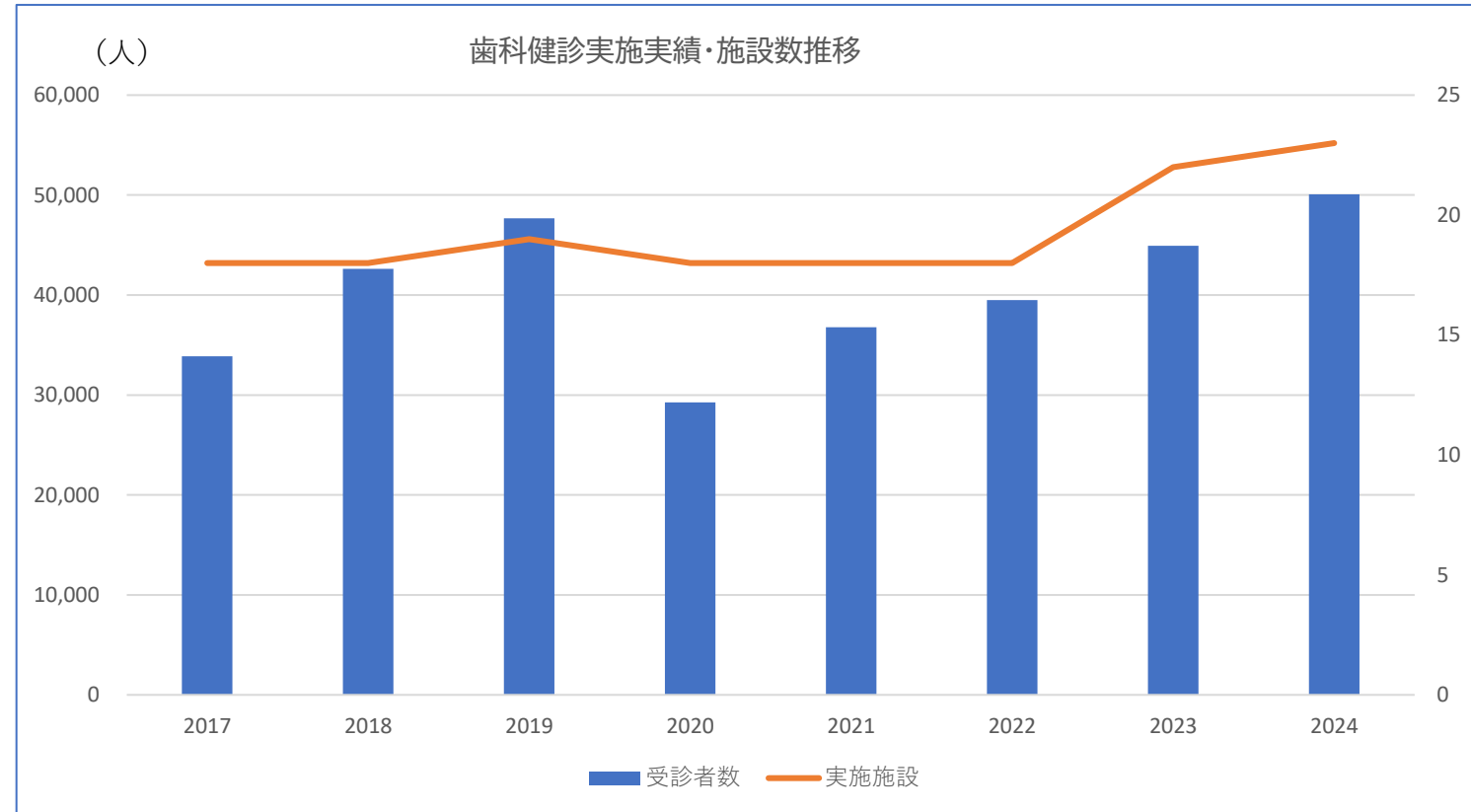
1. 要精密検査対象者のフォローアップは個々の健診機関の任意の取り組みにより行われているが、そのコストは健診施設負担となることが多く、限界がある。

■ 課題解決の提案

1. 健診機関の精密検査の受診把握や勧奨等の活動をさらに活性化するためには、保険者(事業主)との業務委託等の契約の中に、それら活動に対する対価が適切に含まれることを望まれる。

歯科健診の実施状況

■実施機関：20機関
 ■実績：5万人前後



	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
実施人数	33,878	42,629	47,664	29,261	36,791	39,494	44,920	50,073
実施機関	18	18	19	18	18	18	22	23